

熊谷市

～地域の課題解決に意欲的に取り組む商店街の多角的な活動を通じた、市内外への熱中症対策の啓発事業～

令和5年2月8日
成果報告会

【熊谷市】 1. 地域の特徴や課題

(1) 地域の特徴

- 埼玉県のパ野部は、高気圧に覆われる夏に、以下のふたつの理由により、周りに比べて暑くなると考えられる。

・気温の上昇を抑える冷涼な海からの南風が暖められながら運ばれてくる

高気圧に覆われて晴れた夏の日中は、陸地は海に比べて日射により暖まりやすく、その温度差によって気圧差が生じるために、海から陸に向かって冷涼な海風が吹きます。このため、海に近いところでは海風により気温の上昇が抑えられますが、海から遠い所では海風の進入が遅くなることから気温が上がりやすくなります。埼玉県のパ野部は、関東平野の奥まった所に位置し、南からの海風の進入が遅くなります。また、海風は東京などの大きな都市を通ってくる間に暖められて、気温の上昇を抑える効果が小さくなります。このため、埼玉県のパ野部は周りに比べて暑くなります。これには、大都市で人工の熱などのために気温が高くなる、「ヒートアイランド現象」も影響していると考えられます。

・フェーン現象

上空の風が、関東平野の北側や西側の山を越えたあと吹きおりてくることがあります。地上は上空より気圧が高いため、吹きおりてくるにしたがって空気は圧縮されて温度が上がります。これを「フェーン現象」といいます。この温度の上った空気が、熊谷付近に流れこんで気温が上がります。

(2) 熱中症による救急搬送者数の状況

●熊谷市●における熱中症による救急搬送者数推移

年度	年齢区分				傷病程度				件数
	6歳以上	7-17歳	18-64歳	65歳以上	死亡	重症	中等症	軽症	
2022	0	12	72	88	1	4	47	120	172
2021	0	5	30	53	0	4	22	62	88
2020	0	12	38	75	0	2	37	86	125
2019	0	12	54	73	2	5	42	90	139
2018	1	32	81	90	0	8	56	140	204

10万人当たりの熱中症搬送者数（熱中症搬送者率）

	年齢区分			
	6歳以下	7-17歳	18-64歳	65歳以上
全国(参考)	9	67.4	34.2	102.8
熊谷市	2.2	82.5	50.6	132.4

【熊谷市】 1. 地域の特徴や課題

(3)地域の課題

● 高齢者への働きかけ

熱中症リスクが高い日でも、エアコンを使用しなかったり、野外での作業を続けるなどの行動により、熱中症に罹患し重症化するケースも散見される。特に単身高齢者の見守りは、担い手がいないケースも多く、アウトリーチが課題となっている。

● イベントにおける熱中症対策

夏場に、多くのスポーツイベントや祭り等が開催されている中で、熱中症が多発しており、状況に応じた対策を講じていく必要がある。

● 熱中症警戒アラートの周知

熱中症警戒アラートの効果的な活用を図るためにも市民への周知が課題。

● 感染症対策との両立

新型コロナウイルスの感染症の影響が続く中、感染予防対策と熱中症予防をどう両立するかという新たな課題の発生。

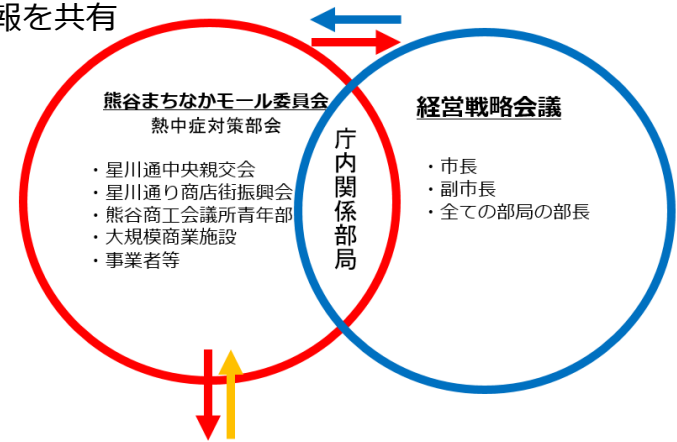
【熊谷市】 2. 熱中症対策における連携体制

(1) 平時における庁内外の連携体制

庁内

市長、副市長ほか全ての部長が出席する**経営戦略会議**にて情報を共有

- ・搬送者数報告、顕著な高温発生時の臨時対応策(車両巡回放送の閉庁日対応、単身高齢者・高齢者のみの世帯への注意喚起・現状確認など)
- ・夏期の会議において、消防本部から報告される市内の熱中症救急搬送状況や熱中症警戒アラートでの対応方針等について共有



庁外

「熊谷まちなかモール委員会」に**熱中症対策部会**を設置

- ・星川通中央親交会、星川通り商店街振興会を始め、**庁内関係部局（産業振興部）**、熊谷商工会議所青年部や、中心市街地にある大規模商業施設、事業者等で構成される「熊谷まちなかモール委員会」に、**熱中症対策部会**を設けた。
- ・毎月商工会議所に集まり、モデル事業の進捗の共有、商店街内の課題、懸案事項等について話し合いを実施。
- ・浜松市、四万十市、多治見市、山形市の民間団体と暑さ対策を行う**一般社団法人アツいまち**とも連携をして、一地域で終わらない取組、情報発信を積極的に実施。

一般社団法人アツいまち

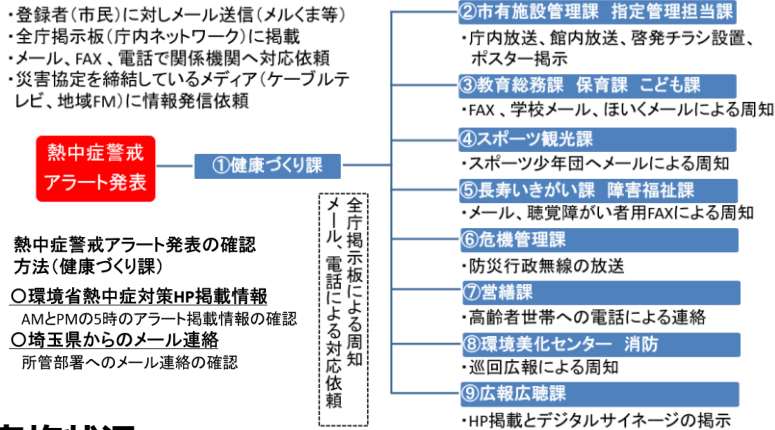
- ・浜松市
- ・四万十市
- ・山形市
- ・多治見市

- ・庁内は、「経営戦略会議」において情報を共有する。
- ・庁外は、「熊谷まちなかモール委員会」に熱中症対策部会を設置する。
- ・「一般社団法人アツいまち」と連携、地域を超えた取組、情報発信を積極的に行っていく。

【熊谷市】 2. 熱中症対策における連携体制

(2) 熱中症警戒アラート発表時における連携体制・対応策

<市内における連携体制と対応策一例>



<熱中症アラート発表時の伝達手段例（一部抜粋）※詳細は次ページ参照>

番号	部局名	対応
①	健康づくり課	○市民全体、全庁へ熱中症警戒アラート情報を発信
②	市有施設管理課 指定管理担当課	○来庁者、公共施設利用者に対し、熱中症警戒アラート情報を発信
③	教育総務課 保育課 こども課	○小中学校、幼稚園、保育所(市立・民間)、児童館、学童クラブ、児童養護施設等へメール、FAX
④	スポーツ観光課	○スポーツ少年団にメールで熱中症警戒アラート情報を発信
⑤	長寿いきがい課 障害福祉課	○高齢者施設、障がい者施設にメール、登録者にFAX送信し、熱中症警戒アラート情報を発信
⑥	危機管理課	○危機管理課による防災行政無線の放送
⑦	営繕課	○市営住宅の高齢者世帯に対し、電話連絡(期間中に1~2回)
⑧	環境美化センター 消防	○環境美化センター、消防による巡回広報
⑨	広報広聴課	○熱中症警戒アラート情報のHPへの掲載とデジタルサイネージの掲示

実施状況

- ・令和4年度、埼玉県では計16回、熱中症警戒アラートが発表された。
- ・「アラート発表時の伝達手段例」を整理し、アラート発表時には主管課である健康づくり課から関係各課へ情報伝達を行い、各課が所管する施設や関係団体等へ確実に周知できる体制を構築した。また市民全体に対しては巡回広報、防災行政無線、熱中症予防情報メール、メール配信サービス、ケーブルテレビや地域FM、ホームページ、デジタルサイネージ等による周知を図った。
- ・アラートが発表された際は、屋外での運動を中止したり、不要不急の外出を避けたり、高齢者らに声掛けを行い、市民が自ら予防対策をとることなどを呼びかけた。

課題

- ・熱中症警戒アラートが発表された際、特に熱中症リスクの高い方たちのうち、子どもや高齢者、障害者等に対しては、市から直接、関係団体に伝達する体制が構築できているが、**建設業や農林水産業等の従事者に対しては、直接、関係団体に伝達する体制が構築できておらず**、防災行政無線や巡回広報といった、市民に広く呼び掛ける方法での伝達に止まっていることが課題であると感じる。

(2)熱中症警戒アラート発表時における連携体制・対応策

【熱中症アラート発表時の伝達手段例】

- ◎ アラートが発表されたことを広く市民に周知する
- ◎ 具体的な行動や注意点をわかりやすく伝え、熱中症予防を呼び掛ける

担当課	対象者	情報伝達手段	取組
健康づくり課 (主管課)	担当課職員	・全庁掲示板(庁内ネットワーク)に掲載(当日始業前までに)	関係機関へメール、FAX、電話連絡



教育総務課 保育課	小中学校・幼稚園 保育所(市立・民間) 児童館・学童クラブ等	・一斉FAX ・学校メール ・ほいくメール	教育委員会から小中学校、幼稚園へメール、FAX送信 保育所、学童クラブ、保護者等へメール送信
市有施設管理課	市役所来庁者 公共施設利用者	・庁内放送、館内放送 ・窓口に啓発チラシ設置 ・ポスターの掲示	広報広聴課、各行政センターへ館内放送を依頼する
指定管理担当課	指定管理施設利用者	・メール及びFAX	指定管理者に連絡 指定管理者は、園内放送や旗、看板掲示等を設置
こども課	地域子育て支援拠点 施設利用者<親子> 児童養護施設	・FAX	地域子育て支援拠点・児童養護施設にFAX送信
スポーツ観光課	スポーツ少年団	・メール	スポーツ少年団にメール送信
長寿いきがい課 障害福祉課 危機管理課	高齢者施設・障害者施設	・メール ・聴覚障がい者用FAX	社会福祉法人(高齢者施設、障害者施設)にメール送信 登録者にFAX送信
宮糺課	高齢者世帯	・電話連絡(期間中1~2回)	市営住宅の高齢者世帯へ電話連絡
環境美化センター 消防	市民全体 <農業従事者> <建設現場等屋外作業者>	・巡回広報	環境美化センター、消防による巡回広報
健康づくり課		・防災行政無線	危機管理課、消防本部(土日祝日)へ放送を依頼
健康づくり課		・熱中症予防情報メール ・メール配信サービス(メルくま)	登録者にメール送信(メール配信サービスは防災行政無線と同時)
健康づくり課		・ケーブルテレビ ・地域FM	災害応援協定を締結しているメディアに情報発信を依頼する
健康づくり課		・ホームページ、デジタルサイネージ	広報広聴課へホームページとデジタルサイネージを依頼する

【熊谷市】 3. モデル事業の取組概要

事業名：地域の課題解決に意欲的に取り組む商店街の多角的な活動を通じた、市内外への熱中症対策の啓発事業

共同実施者	役割
星川通中央親交会	市民の注目が集まる中心市街地を流れる星川沿いにある2つの商店街において、熱中症対策のモデルケースの実施、運営、商店街内外との調整及び熱中症予防情報の発信等。
星川通り商店街振興会	同上

取組概要

熊谷市においては熱中症の観点から若年層や高齢者の搬送者が多いこと、また、大型運動施設や工場などが立地する地域での搬送者数が多いことなどが判明しており、本モデル事業をもって若年層や高齢者向けに熱中症予防対策を目的とした以下の取組を実施します。

- リスク評価 1：市内の熱中症の発症の傾向を分析
- 取組 1：中心市街地を活用した熱中症対策モデルケースの構築
- 取組 2：若者への熱中症対策の訴求と関心づくり
- 取組 3：Webを活用した熱中症×街の発信
- 取組 4：アツいまちサミットとの連携による情報の発信

本事業における指標（KPI）の設定

取組 1：中心市街地を活用した熱中症対策モデルケースの構築	モデルショップ(店舗とタイニーハウス)の紹介者数 約2,000人
取組 2：若者への熱中症対策の訴求と関心づくり	応募者数 約100人、タウン誌の読者数 約20,000人
取組 3：Webを活用した熱中症×街の発信	再生回数 8,000回
取組 4：アツいまちサミットとの連携による情報の発信	外部媒体に取り上げられた本数 10本

【熊谷市】 4. リスク評価

リスク評価 1：市内の熱中症の発症の傾向を分析

2017年から3年間、立正大学に研究を委託し、市内の小学校に設置している熱中症予防情報システムのW B G Tデータと夏期における熱中症による救急搬送人員数等の調査データを提供して、熱中症の発症の傾向を分析している。

●発症の状況別の傾向の分析・手法

「発症の状況」として熱中症発症時の患者の様子や行動が記録されている調査データより、労作性熱中症と古典的熱中症をできるかぎり明確に区別し、熱中症発症ケースを分類。

- 労作性熱中症：「発症の状況」がランニングなどの運動中、息が上がるほどの激しい行動をしていたと記載されているもの
- 古典的熱中症：「発症の状況」が静養中、自宅で体動困難、体調不良、持病、（熱中症の）再発などと記載されているもの
- その他：上記2タイプの熱中症に当てはまらないもの。「発症の状況」は、工作中、作業中、掃除中、歩行時、農作業中、吹奏楽の練習中等熱中症データの解析期間は2009～2018年の6～9月とした。

●市内大字ごとの熱中症搬送者数と特性ごとの熱中症の発症の傾向の分析・手法

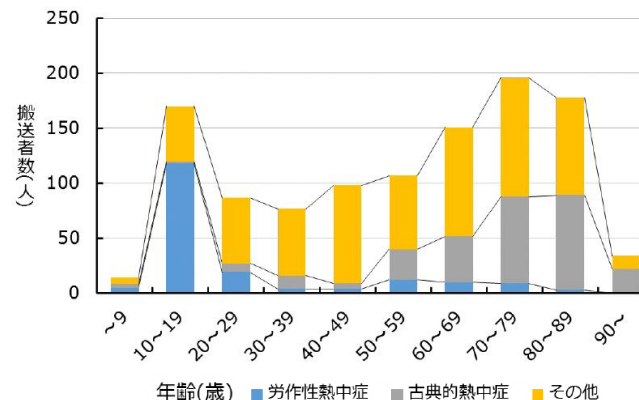
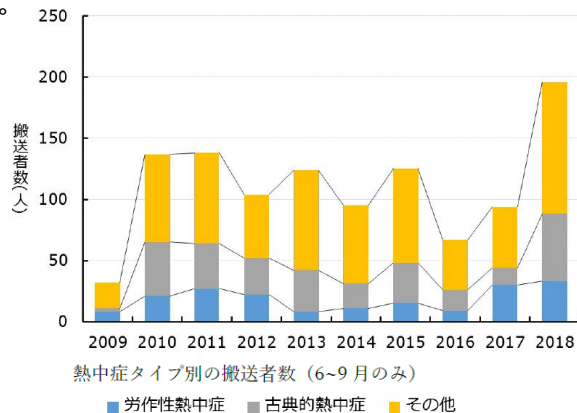
熊谷市の「夏季における熱中症による救急搬送人数等の調査データ」に基づき、市内の熱中症発症傾向の把握を行なった。熊谷市内で発生した熱中症による救急搬送事例のデータをもとに労作性熱中症を運動と労働によるものに区別し、大字ごとの発症傾向を探った。解析対象期間は2008～2019年とし、熊谷地方気象台の気象観測データを用いた。また、2016年の市内大字ごとの人口データを用いた。

結果

●発症の状況別の傾向の分析結果

調査対象期間中の熊谷市全体の熱中症搬送者数は1,112人であった。そのうち、労作性熱中症と判断されたものは184人（全体の16.5%）、古典的熱中症と判断されたものは287人（25.8%）であった。その他の熱中症は641人で、全体の57.6%であった。

10歳ごとの年齢毎に見ると、労作性熱中症は10～19歳で搬送者数が飛び抜けて多い（118人）ことがわかる。生産年齢層の20代から60代にも労作性熱中症は見られるが、その総数は少ない。古典的熱中症は50代以上で多く、特に多かったのは70代（79人）と80代（86人）であった。



【熊谷市】 4. リスク評価

結果

● 市内大字ごとの熱中症搬送者数と特性ごとの熱中症の発症の傾向の分析結果

熊谷市内には、運動や労働作業など労作性熱中症が比較的多い大字と、日常生活の中で発症する古典的熱中症が多い大字が混在していることが明らかとなった。

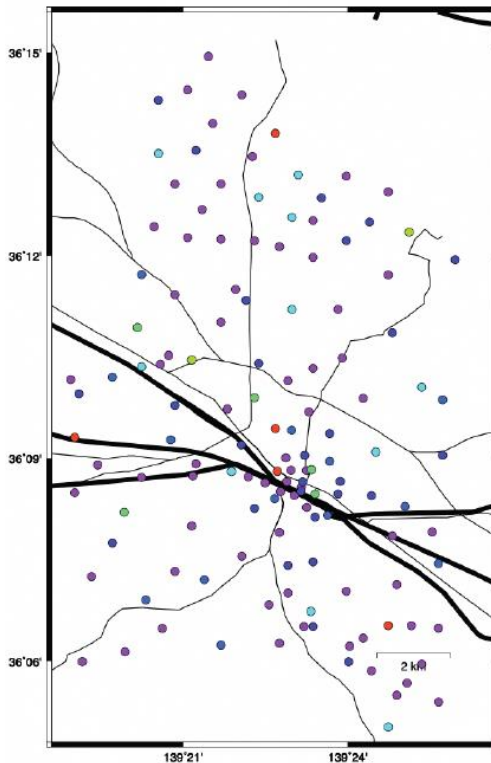
搬送者数の多い大字は市内に散らばって存在している。搬送率が10名前後の地区が市中心部に集まって見られるが、郊外にも高い搬送率の地区が散在しており、市街地と郊外の明瞭な差は見受けられず、大字ごとの解析において、熱中症発症の空間分布に明瞭な空間パターンは見られなかった。

	累積搬送者数		2016年人口		種別	
	地区名	搬送者数	合計	高齢者数(%)	労災	運動
1位	A地区	52	9277	24.6	4	1
2位	B地区	47	4950	26.4	8	3
	C地区	47	3138	30.4	16	2
4位	D地区	45	1055	27.2	2	22
5位	E地区	43	851	31.5	2	20
6位	F地区	37	7532	23.6	2	0
	G地区	36	4139	30.8	0	4
7位	H地区	36	2542	26.0	11	5
	I地区	26	9203	30.3	5	1
9位	J地区	26	2799	29.0	2	6
	K地区	26	2535	28.5	6	0

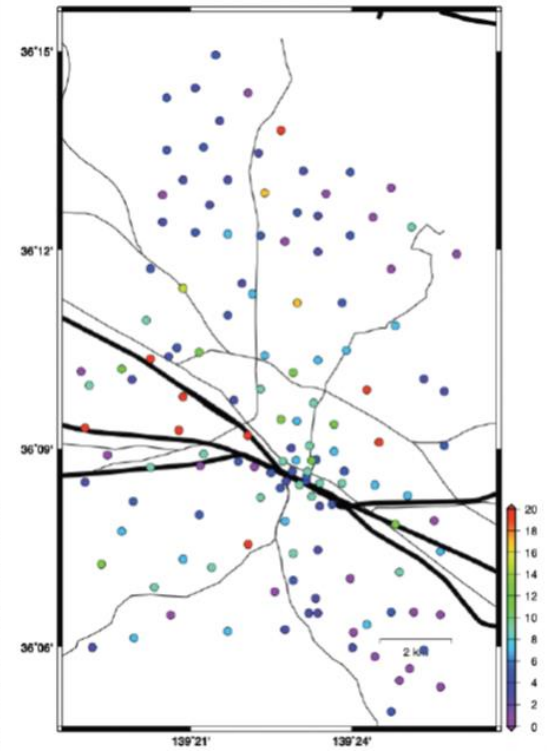
2010～2019年の熊谷市大字ごとの累積熱中症搬送者数、労災と運動の種別件数、2016年人口と高齢率（65歳以上人口の割合）。累積熱中症搬送者数上位10地区を示す。

	1,000人あたり搬送率		2016年人口		種別		
	地区名	搬送率	合計	高齢者数(%)	労災	運動	
1位	a地区	91	9	99	48.5	2	0
2位	b地区	51	43	851	31.5	2	20
3位	c地区	43	45	1055	27.2	2	22
4位	d地区	34	15	440	21.1	1	4
5位	e地区	26	4	153	54.2	2	0
6位	f地区	23	18	768	18	5	3
7位	g地区	21	7	337	35.9	1	3
8位	h地区	19	5	265	30.6	0	0
9位	i地区	19	2	106	29.2	0	0
10位	j地区	18	18	990	38.3	4	0

2010～2019年の熊谷市大字ごとの累積熱中症搬送者数、人口1,000人あたりの熱中症搬送者数（搬送率）、労災と運動の種別件数、ならびに、2016年人口と高齢率（65歳以上人口の割合）。搬送率上位10地区を示す。



2010～2019年熊谷市内大字ごとの熱中症搬送者数。



2010～2019年熊谷市大字ごとの人口1,000人あたりの熱中症搬送者数。

課題

高温が続くことが影響する古典的熱中症と、気温が比較的低くても発症する運動や労働に起因する労作性熱中症では、それぞれ別の対策が必要となる。 9

【熊谷市】 5. 取組内容と結果

取組 1 : 中心市街地を活用した熱中症対策モデルケースの構築

● 中心市街地における熱中症モデルケースの構築

<取組事項>

店舗やタイニーハウスに熱中症対策を施し、その有無の比較・体験、ワークショップ開催の他、データの収集・分析などを行う。

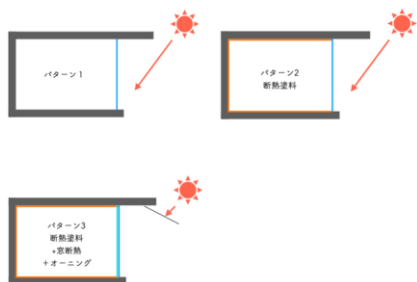
店舗における取組

【建物への対策】南向きの空き物件を借り、遮熱やオーニング（日よけ）等を設置して効果的な対策を解明するとともに、体験型イベントの開催を通じ、普及啓発も行った。

- ・「遮熱対策なし」、「遮熱塗料のみ」、「遮熱塗料、窓断熱、オーニング（日よけ）あり」の3パターンを用意
- ・さらにエアコンの起動あり、なしの状況に分けて、店舗内に設置した黒球温度計により、1日の温度変化を計測

結果

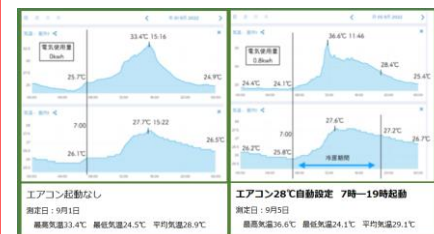
各パターンイメージ図



パターン1. 遮熱塗料なし、窓断熱なし、オーニング（日よけ）なし



パターン2. 遮熱塗料あり、窓断熱なし、オーニング（日よけ）なし



パターン3. 遮熱塗料あり、窓断熱あり、オーニング（日よけ）あり

日射を抑えて（オーニング（日よけ）設置）、冷やした空気を逃がさない対策（断熱対策）が最も**室温が安定し、電気使用量も抑える**ことができた。

【熊谷市】 5. 取組内容と結果

取組1：中心市街地を活用した熱中症対策モデルケースの構築

● 中心市街地における熱中症モデルケースの構築

<取組事項>

店舗やタイニーハウスに熱中症対策を施し、その有無の比較・体験、ワークショップ開催の他、データの収集・分析などを行う。

店舗における取組

【ワークショップの開催】

- ・ 「遮熱塗料、窓断熱、オーニング（日よけ）あり」の状態体験型イベント及びワークショップを開催
- ・ 児童・生徒や家族連れを対象に遮熱処理をした建物の遮熱効果を体験してもらった

<効果の指標KPI> モデルショップ(店舗とタイニーハウス)の紹介者数 約2,000人

結果

✓壁塗り体験(7/31日)

対象:児童・生徒

地球温暖化や環境に負荷をかけない暮らしについて説明を行った。いまできる、足元からの取組として、冷たい空気を外へ逃がさない遮熱塗料を塗る体験をもらった。



✓風鈴づくりワークショップ(9/10土)

対象:子ども・家族連れ

子ども・家族連れを対象に、店舗の暑さ対策を体験しながら風鈴づくりを行った。



○商店街のイベントや打合せで活用する他、土・日は買い物途中に休憩できる**クーリングスポット**として開放(小中学校のイベント、SNSや店頭のパスターで告知)。
○中心市街地活性化事業(地元商店主のほか、地銀や企業など参加)で「店舗」の熱中症対策の取組を説明。

<効果の指標 (KPI) >  **紹介者数 約2,400人**

【熊谷市】 5. 取組内容と結果

取組 1 : 中心市街地を活用した熱中症対策モデルケースの構築

● 中心市街地における熱中症モデルケースの構築

<取組事項>

店舗やタイニーハウスに熱中症対策を施し、その有無の比較・体験、ワークショップ開催の他、データの収集・分析などを行う。

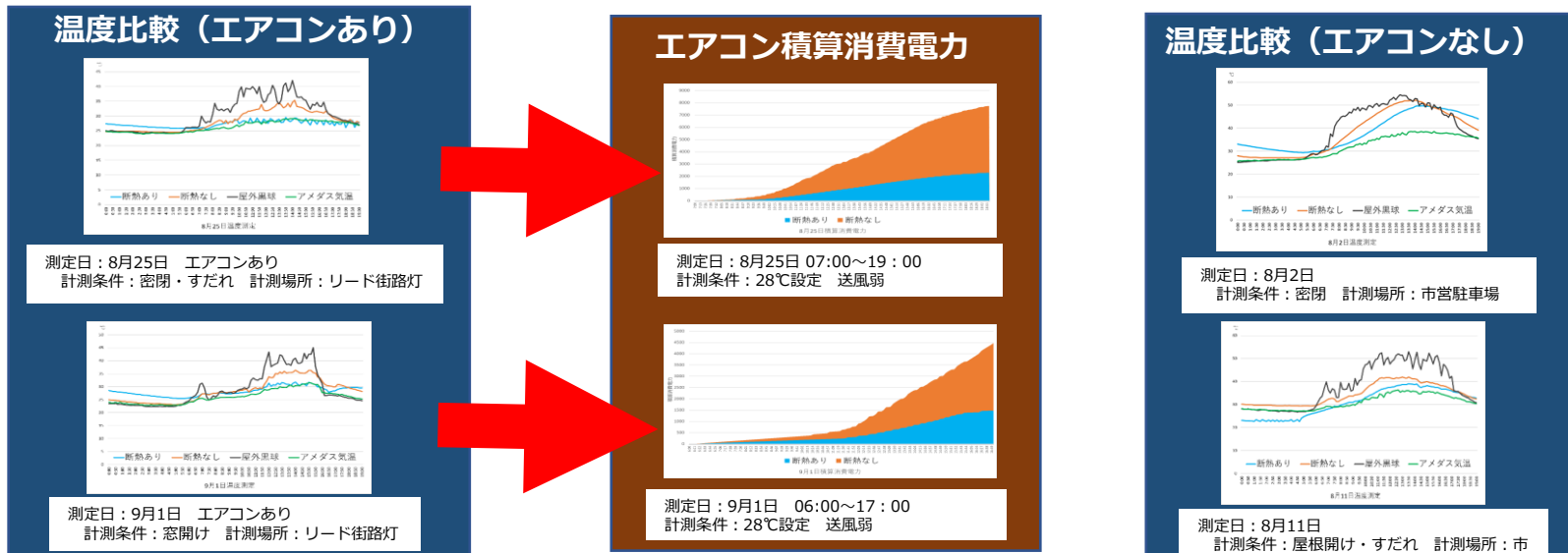
タイニーハウスにおける取組

【建物への対策】熱中症対策の“動くショールーム”として活用。断熱対策を実施したものとしなないものを2台用意し、比較試験を行う。対策の効果を把握するため、断熱あり・なしのそれぞれについて①エアコンの電気使用量、②室内温度のデータ収集を行い、分析する。

- ・タイニーハウスをエアコンのあり、なしおよび密閉、開放の条件に分けて、断熱対策ありとなしでデータ計測
- ・黒球温度計により温度を計測

結果

断熱対策後の方が、**温度が下がり**、下げる室温も低くなるため、**エアコンの消費電力も削減**された。



いずれの場合も水色線 (断熱対策後) が橙色線 (対策なし) を下回っている。

【熊谷市】 5. 取組内容と結果

取組1：中心市街地を活用した熱中症対策モデルケースの構築

● 中心市街地における熱中症モデルケースの構築

<取組事項>

店舗やタイニーハウスに熱中症対策を施し、その有無の比較・体験、ワークショップ開催の他、データの収集・分析などを行う。

タイニーハウスにおける取組

【体験イベントの開催】

- ・納涼盆踊り大会等のイベント時には、断熱あり・なしの2台を並べて、子どもたちや家族連れを中心に違いを体感してもらった。

<効果の指標KPI> モデルショップ(店舗とタイニーハウス)の紹介者数 約2,000人

結果



<タイニーハウスの諸元>

幅1,410×長さ1,910×高さ1,800(mm)、床面積2.3㎡(畳約1.3帖)、重さ約300kg。
軽トラックに積載、運搬できるサイズである。

<体験した方の声>

『断熱の方がやっぱり涼しいね。』『電気代が削減できるのはいいかも。』『対策する意味あるんですね。』『あまり変わらなかった』など

☞ 暑さ対策をしたタイニーハウスへの問合せが**2件**あった。

	断熱加工あり	断熱加工なし
サッシ	樹脂	金属(アルミ)
ガラス	Low-Eペアガラス (複層ガラス)	単層ガラス
断熱材	80mm ネオマフォーム	—



▲Low-Eペアガラス
(複層ガラス)

▲単層ガラス

<効果の指標 (KPI) >

☞ **紹介者数 約2,400人**

【熊谷市】 5. 取組内容と結果

取組2：若者への熱中症対策の訴求と関心づくり

● 若者を中心とするさまざまな層への熱中症予防啓発

小学生を対象に「わたしのあつさたいさくコンテスト」を実施。この結果を商店街、大型商業施設や熊谷駅と連携し、展示やタウン誌を通じてさまざまな層に周知を図る。

＜効果の指標（KPI）＞

応募者数 約100人、タウン誌の読者数 約20,000人

結果

応募者数 222件(8月末応募メ)



<https://kumagayahoshikawa.com/oubo/contest>

熊谷市外、さらには県外からの応募もあった。

10月下旬～12月の第2土曜日まで、熊谷駅ビル4F特設会場にて今回の取組とコンテストの応募作品を掲示。

11月3日(祝) 商店街のお祭り(えびす祭り)で表彰式を行い、動画を公開。



ボランティア情報誌「かりん」への掲載

後援

熊谷市、熊谷市教育委員会、熊谷市社会福祉協議会
読者数22,000人

他のイベントとのコラボで認知を図る



11月3日の熊谷えびす大商業祭の中で、表彰式を実施。



駅ビルでの作品展示では、12月10日のクイズラリーイベントと掛け合わせ、252名の親子が皆展示会に向向く様子。

【熊谷市】 5. 取組内容と結果

取組2：若者への熱中症対策の訴求と関心づくり

● 若者を中心とするさまざまな層への熱中症予防啓発

小学生を対象に「わたしのあつさたいさくコンテスト」を実施。この結果を商店街、大型商業施設や熊谷駅と連携し、展示やタウン誌を通じてさまざまな層に周知を図る。

＜効果の指標（KPI）＞

応募者数 約100人、タウン誌の読者数 約20,000人

結果

👉 タウン誌読者数 16,000人+ボランティア情報誌読者数 22,000人

市内の小中学生へ配布（1月）



(タウン誌発行(2022年12月) 読者数 16,000人)

(ボランティア情報誌「かりん」への掲載
読者数 22,000人)

【熊谷市】 5. 取組内容と結果

取組3 : Webを活用した熱中症×街の発信

●SNS等で熱中症予防啓発に関する情報発信

YouTubeで熊谷市独自の取組を外部へ情報発信する。

YouTubeの拡散については、小中学校や商店街の店舗で適宜告知する。

<効果の指標 (KPI) >

再生回数 8,000回

結果

 **再生回数 約6,087回(令和5年1月31日22時時点)**

	動画	ターゲット	動画URL
1	断熱タイニーハウスで熱中症対策！ ～タイニーハウスの製作～	近隣住民のうち 親子・家族連れなど 若年層へ訴求する くらしのそばに 熱中症(とその対策)があることを 伝える	https://www.youtube.com/watch?v=05De1-ZTkWA
2	星川の地域でおこなうグリーンカーテン 埼玉県熊谷市【アツいまちサミット 2022】		https://www.youtube.com/watch?v=McrBFSSQHWc
3	熱中症対策店舗で壁塗り＆風鈴ワーク ショップ 埼玉県熊谷市		https://www.youtube.com/watch?v=E67t5gtCcOE
4	熊谷ラグササイズでアツい夏を乗り切ろう！ 熊谷ラグササイズ 星川通りバージョン♪ (※)ラグササイズとは、ラグビーならではの動きを取り入れたエクササイズ。		https://www.youtube.com/watch?v=VTPJQzm3JD8
5	ミストとアートで駅でも涼しく♪ 埼玉県 熊谷市暑さ対策		https://www.youtube.com/watch?v=cQgx3z_sK_U
6	第1回 わたしのあつきたいさくコンテスト 表彰式		https://www.youtube.com/watch?v=IZDFWyKmOXY
7	タイニーハウス断熱効果大調査！ ～エア コン消費電力に驚きの差が～		https://www.youtube.com/watch?v=nRAfRyOL_vM
8	【熊谷市暑さ対策2022】今年の夏に実施 した「暑さ対策」～総集編～		https://www.youtube.com/watch?v=HjqscFOih08&t=10s

【熊谷市】 5. 取組内容と結果

取組4：アツいまちサミットとの連携による情報の発信

- 「アツいまちサミット」への参加
他の自治体との連携のプラットフォームへの参加
- メディアへの露出
メディアへの露出による熱中症予防啓発の取組

<効果の指標 (KPI) >

外部媒体に取り上げられた本数 10本

結果

「アツいまちサミット」への参加

<https://www.youtube.com/watch?v=ns69PWaJ8PI>

外部媒体に取り上げられた本数 268本

熊谷市で実施されている熱中症予防対策の普及啓発の取り組みについて、メディアに発信することができた。

日本テレビ(7月12日(火))“news24”、NHK(7月13日(水))、“クローズアップ現代”、テレビ朝日(8月29日(月))“じゅん散歩”…ほかテレビ、ラジオ、新聞等多数



【熊谷市】 6. モデル事業まとめ

事業を通して出た成果・新たな課題・今後の対応方針等

① 中心市街地における熱中症モデルケースの構築

店舗では、熱中症対策が進んでおらず、また、新規店舗も費用面から対策が進んでいない。今回の事業で、店舗における断熱材やオーニング（日よけ）を利用した具体的な熱中症対策については継続した訴求が必要だと感じた。

② 若者への熱中症対策の訴求と関心づくり

「あつさたいさくコンテスト」は、小学校や児童館・学童などさまざまな施設で取り組んで頂く事ができた。表彰式には、親子でお越し頂き、ご家族で暑さ対策について考える機会を創れたのは大変良かった。今後は、事業を継続して行いながら、地域での違う事業とも連携をさせることで、熱中症対策について考える関係人口を増やしていきたい。

③ Webを活用した熱中症×街の発信

動画やSNS、HPで情報の発信を行った。動画では、若い人だけでなく高齢者にも出演頂き、地域内での関心を高める事ができた。動画においては、Web上に残しておく事で、毎年夏に見て頂く機会を創っていきたい。

④ アツいまちサミットとの連携による情報の発信

今年は、300本近くのメディアに露出することができた。これにより、熊谷＝暑さ対策に取り組んでいる市と発信することができた。今後も継続して露出させ、暑さ対策先進都市として発信をしていきたい。

1年間モデル事業を実施して、所感、得られた知見、課題

今回、複数の事業を展開したことで、暑さ対策の関係人口を増やすことができた。暑さ対策は、体験して気づく事が多く、今回の事業では沢山の人に気づきを与えられた。ただ、夏の事業の情報発信が遅くなってしまい、伝えきれない部分もあった。

【熊谷市】 7. 熱中症対策における継続的改善のため

熊谷市では、H30～R9(年度)までの10年間を計画期間とする「第2次熊谷市総合振興計画」のなかで「暑さ対策日本一の推進」を掲げ、市民の健康対策の推進や温暖化対策の推進、環境・健康教育の推進を図ってきた。現在、R5～R9(年度)までの後期基本計画に『熱中症を予防する取組の必要性』を盛り込むことを検討している。

- ・地域の課題解決に意欲的に取り組む商店街の多角的な活動を通じた熱中症対策の啓発を継続して実施していただけた場合には、**市として広報・周知の観点から市民への啓発につなげていきたい**と考えている。

- ・第2次熊谷市総合振興計画後期基本計画について、令和5年3月議会で審議いただく予定だが、現在、「**熱中症予防に関する取組の推進**」のほか、「**スマートシティの取組の一環としての暑さに負けない快適なまちづくり**」や「**カーボンニュートラルに向けた地球温暖化対策に係る取組**」などの要素を盛り込むことを検討中である。

【熊谷市】 <参考>モデル事業 年間スケジュール

項目	内容	月												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
準備	請負業者と共同実施者（「星川通中央親交会」、「星川通り商店街振興会」）の打合せ	■												
	熊谷まちなかモール委員会に熱中症対策部会を設ける	■												
	庁内体制整備（経営戦略会議での連絡体制の確認）		■											
事業実施	アツいまちサミット参加		■											
	小学生の熱中症コンテスト募集開始			■										
	店舗賃貸者契約 工事			■										
	タイニーハウスレンタル開始			■										
	実証実験、熱中症対策モデルケース実施（「星川通中央親交会」、「星川通り商店街振興会」）			■	■	■								
	動画の作成及び公表			■	■	■								
	小学生の熱中症対策コンテスト結果発表						■							
	小学生の熱中症対策コンテストタウン誌で告知						■							
成果報告	小学生の熱中症対策コンテスト商店街、大型商業施設、熊谷駅展示						■							
	リスク評価や試行的実施結果の検証							■	■					
	環境省に中間報告書を提出								■					
	環境省に最終報告書を提出									■				
	環境省の検討会における成果報告その結果を踏まえ、計画や報告書を修正 事業完了										■	■	●	